

平成 24 年秋における外来魚生息状況調査結果

臼杵 崇広・上垣 雅史・上野 世司

1. 目的

平成 24 年秋の琵琶湖における外来魚（ブルーギルおよびオオクチバス当歳魚）の生息状況を定点捕獲調査から把握し、外来魚駆除事業の効果を推定する。

2. 方法

琵琶湖沿岸帯（水深 7m 以浅）の 115 定点（南湖 41 定点、北湖 74 定点）において捕獲調査を行った。調査は小型ビームトロール網（ビーム長 4m）を小型動力船で曳網することによって行った。曳網時間は北湖 5 分間、南湖 3 分間とし、曳網速度は 0.27m/sec を基準とした。ブルーギルおよびオオクチバス当歳魚について曳網 1ha あたりの捕獲尾数を求め、調査に使用した試験漁具（4m ビームトロール網）が同一の平成 19 年以降の結果と併せて推移を示した。

3. 結果

ブルーギルは捕獲魚の体長から 45mm 未満を当歳魚、45mm 以上 85mm 未満を 1 歳魚、85mm 以上を 2 歳以上魚とした。図 1 に南湖の、図 2 に北湖の曳網 1ha あたりの同種捕獲尾数の推移を示した。平成 24 年秋における同種当歳魚の捕獲尾数は、南湖では 10,673 尾/ha（前年比 708.8%）と著しく増加し、非常に高い生息レベルとなった。一方、北湖では 876 尾/ha（前年比 92.2%）とやや減少した。

オオクチバスは、体長が 120mm 未満の個体を当歳魚とし、その曳網 1ha あたりの捕獲尾数を図 3 に示した。前年と比較すると南湖では 199 尾/ha（前年比 115.5%）とやや増加したが、北湖では 27 尾/ha（前年比 27.0%）と大きく減少した。

調査の結果、ブルーギル当歳魚は南湖で著しく増加していると考えられる。このため、

主要な捕獲サイズの 2 歳魚になる前のなるべく早い段階からこの年級群を捕獲できる沖曳網等で徹底的に駆除していくことが望ましい。

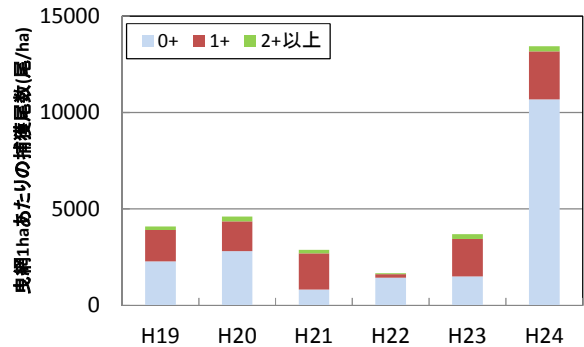


図 1 南湖における曳網 1ha あたりのブルーギル年齢別捕獲尾数の推移。

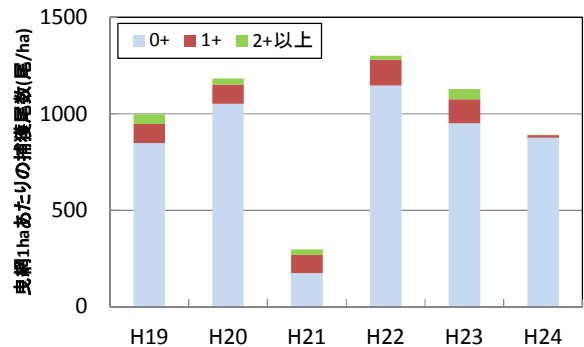


図 2 北湖における曳網 1ha あたりのブルーギル年齢別捕獲尾数の推移。

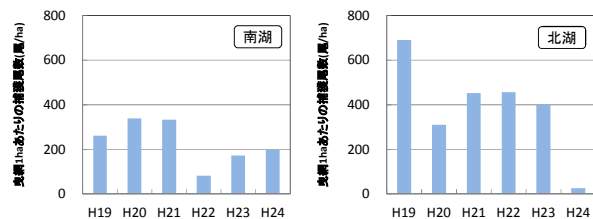


図 3 南湖および北湖における曳網 1ha あたりのオオクチバス当歳魚捕獲尾数の推移。